

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 教授	氏名 後藤 智範	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
大規模複合語データに 対する構成字種解析	共著	2011年 7月	情報処理学会. 自然言語 処理研究会報告(NL) (202)	滝川諒、後藤智範	1-7頁
許抄録に出現する多字 種複合語に対する字種 に基づく解析 part. 2: 字種変化パタ ーンの解析	共著	2011年11月	情報処理学会. 自然言語 処理研究会(NL)報告) (204(3))	滝川諒、後藤智範	1-12頁

学術論文抄録に出現する多字種複合語に対する字種特性の解析	共著	2012年 3月	言語処理学会第18回年次大会 (NLP2012) 発表論文集	田代征嗣, 滝川諒, 後藤智範	935-938頁
辞書見出し語中の複合を対象とした字種変化特性分析	共著	2013年11月	情報処理学会 自然言語処理研究会 (NL) (No. 214.)	熊澤侑美, 斎藤恵, 後藤 智範	
特許抄録中の複合語を対象とした字種変化特性の分析	共著	2014年 7月	情報処理学会 自然言語処理研究会 (no. 217)	熊澤侑美, 後藤智範	
その他					
特許抄録に出現する多字種複合語に対する字種に基づく解析 part. 1: 多字種複合語の抽出と構成字種の解析	共著	2011年11月	情報処理学会. 自然言語処理研究会報告 (NL) (204)	滝川諒, 後藤智範	1-15頁
学術論文標題に出現する多字種複合語に対する字種特性の解析	共著	2012年 3月	言語処理学会第18回年次大会 (NLP2012) 発表論文集	田代征嗣, 滝川諒, 後藤智範	939-942頁

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
	個人研究 知的情報検索システム
	個人研究 自己組織情報システム
1980年 4月～現在に至る	三田図書館・情報学会(国内学会) 会員
1986年 7月～現在に至る	計量国語学会(国内学会) 会員
1986年 9月～現在に至る	日本認知科学会(国内学会) 会員
1987年 5月～現在に至る	人工知能学会(国内学会) 会員
1987年 5月～現在に至る	情報処理学会(国内学会) 会員
1989年 4月～現在に至る	情報科学技術協会 会員
1991年 4月～現在に至る	専門用語学会(国内学会) 会員
1992年 4月～現在に至る	専門用語学会(国内学会) 企画委員
1993年 4月～現在に至る	情報知識学会(国内学会) 会員
1995年 5月～現在に至る	情報知識学会(国内学会) 理事

2003年 7月～現在に至る	Association of Computational Linguistics 会員
2003年 7月～現在に至る	言語処理学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 知識構造の視覚化

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 教授	氏名 中山 堯	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
学生による授業評価アンケート結果の活用			授業が難しいという評価を受けて、直感的な理解が得られやすいように具体的な応用例を挙げると共に、プログラムを与えて学生が自分で動かして試せるようにした。授業内容は全体をカバーするパワーポイントスライドを毎回配布した。		
毎回の授業における小テストと質問収集		1994年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：プログラミング言語) 授業の終わりに小テストを毎回実施し、その解答を授業用のホームページに掲載し、解説している。収集した質問に対する回答もホームページに掲載している。(平成6年4月1日～)		
メーリングリストとレポート管理システムによる授業サポート		1998年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：プログラミング演習および人工知能) プログラミング課題のレポート提出と解答の掲示にメーリングリストとレポート管理システムを利用している。課題に関連した質問の受付け回答も両者を適宜併用している。(平成10年4月1日)		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2007年度後期授業評価アンケート結果			(人工知能2) 授業を難しいと感じる学生が8割以上、教員に熱意を感じる学生が8割以上、授業に満足する学生が6割以上という結果を得た。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

なし					
論文					
カリキュラムの特徴抽出と時間割の要約生成	共著	2010年 5月	情報知識学会誌 20(2)	堀 幸雄、中山 堯、今井慈郎	201-206頁
科目ネットワーク上の 活性伝播を用いた時間 割の自動生成システム (査読付)	共著	2011年 7月	情報処理学会論文誌 52(7)		2332-2342頁
履修履歴を用いた科目 成績の推定方法と検証	共著	2013年 5月	情報知識学会誌 23(2)	堀幸雄、西森友省、今井慈郎、 中山堯	193-198頁
その他					
なし					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1974年 4月～現在に至る	日本化学会(国内学会)会員
1979年10月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
1979年11月～現在に至る	電子通信学会(国内学会)会員
1984年 4月～現在に至る	日本認知学会(国内学会)会員
1987年11月～現在に至る	人工知能学会(国内学会)会員
1989年 6月～現在に至る	ACM 会員
1990年11月～現在に至る	IEEE 会員
1996年 4月～現在に至る	個人研究 学習機能を持つ意味記憶空間の構築
1997年 6月～現在に至る	AAAI 会員
1999年 4月～現在に至る	言語処理学会(国内学会)会員
2002年 4月～現在に至る	個人研究 たんぱく質の分類予測システムの研究開発
2007年 4月～現在に至る	個人研究 日本語対話システムの研究開発

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 助手	氏名 南雲 夏彦	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		個人研究 不完全情報ゲームにおける着手探索手法			
1985年12月～現在に至る		情報処理学会(国内学会)会員			

1985年12月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)会員
1994年 6月～現在に至る	日本シュミレーション&ゲーミング学会(国内学会)会員
1996年 4月～現在に至る	日本遊戯史学会(国内学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 准教授	氏名 松井 祥悟	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
OS9用LISP1.5インタプリタ (Euzak Lisp)		1985年 4月 ～現在に至る	パソコン (OS9) 用LISPシステム。筑波大学 (数学系) において、LISP実習用に使用された。		
PDP11アセンブリ言語実習システム		1985年 4月 ～現在に至る	中西正和、松井祥悟他。慶應義塾大学工学部数理科学科のアセンブリ言語実習システム。ハードウェアの設計を担当。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					

年月	内容
1982年10月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
1984年10月～現在に至る	アメリカACM 会員
1988年 7月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)プログラミング研究会運営委員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 ガーベジ・コレクション
2005年 4月～現在に至る	個人研究 計算機言語
2005年 4月～現在に至る	個人研究 関数型プログラミング

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 助手	氏名 木元 宏次	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
学生による授業アンケート結果の活用		1999年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：情報処理I, 情報処理II (慶應義塾大学)) 学期の初めに講義に関するアンケートを実施し, 結果をその後の授業に反映させている。		
2 作成した教科書、教材					
講義用Webコンテンツの作成		1999年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：情報処理I, 情報処理II (慶應義塾大学)) 講義のためのWebコンテンツを作成した。		
講義用Webコンテンツの作成		2002年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：マルチメディア情報処理および実習I, II (東洋大学)) 講義のためのWebコンテンツを作成した。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
年月	内容
1986年11月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
1988年 4月～現在に至る	IEEE Computer Society(国際学会)会員
1990年 8月～現在に至る	ACM(国際学会)会員
2001年10月～現在に至る	芸術科学会(国内学会)会員
2004年 6月～現在に至る	画像電子学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 コンピュータ・アート
2005年 4月～現在に至る	個人研究 微細形状物体の質感表示
2005年 4月～現在に至る	個人研究 画像処理技術のCGへの応用
2005年12月～現在に至る	日本色彩学会(国内学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 助手	氏名 森本 貴之	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
好冷性珪藻類 Thalassiosira Nordenskioeldii から の全ゲノム遺伝子の抽出	共著	2014年 6月	神奈川大学理学誌 25	鈴木祥弘 金澤謙一 森本貴之 米 澤直樹 中山堯	107-110頁
その他					
なし					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
年月	内容
1992年12月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
1998年～現在に至る	個人研究 情報の構造化に関する研究
2000年 5月～現在に至る	情報知識学会(国内学会)会員
2003年 6月～現在に至る	ACL(国際学会)会員
2013年 4月～2014年 3月	機関内共同研究 (平成25年度総合理学研究所共同研究)生物ゲノム情報の効率的解析手法の検討
2014年 4月～2015年 3月	機関内共同研究 (平成26年度総合理学研究所共同研究)生物ゲノム情報の効率的解析手法の検討2

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 教授	氏名 張 善俊	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Electronic Voting Systems Using Divided Image Cryptography (査読付)	単著	2010年 9月	Information 13(5)		1793-1806頁
画像をコードブックに 利用する投票の暗号化 方法 (査読付)	共著	2011年 1月	画像電子学会誌 40(1)	張善俊、盛磊	208-216頁

Design of Continuous Indoor Navigation System Based on INS and Wifi (査読付)	共著	2013年 2月	Applied Mechanics and Materials ,Trans Tech Publications, Switzerland 303	Yi Hu, Lei Sheng, Shan Jun Zhang	2046-2049頁
カラー画像の顕著度マップによるモルフロジー処理法 (査読付)	共著	2014年 3月	画像電子学会誌 43(2)	盛磊, 吉野 和芳, 張善俊	pp. 175-183頁
その他					
Evaluation of Patient Exercise for Motion Advice by Rehabilitation Instruction Robot (査読付)	共著	2010年12月	Proc. of 4th Asia International Symposium on Mechatronics (AISM2010)	Kazuyoshi Yoshino and Shanjun Zhang	181-186頁
オーステレオグラムにおける変則的融合の検証	共著	2011年 9月	FIT2011 第10回情報科学技術フォーラム, 平成23年9月7日(水)~9日(金) (函館大学)	大橋智樹・盛 磊・張 善俊	J-066頁
オーステレオグラムにおける融像とずれ幅の関係性	共著	2011年 9月	2011年ソサイエティ大会, 2011年9月13日(火)~16日(金) (北海道大学)	大橋智樹・盛 磊・張 善俊	A-21-1頁
Correct Motion Advice on Rehabilitation Instruction Robot by Superimposing Instructor CG Model	共著	2012年11月	Fifth International Conference on Intelligent Networks and Intelligent Systems,	45) Kazuyoshi Yoshino, Masafumi Kouda and <u>Shanjun Zhang</u>	333-336頁

Morphology Algorithm using Conspicuousness Map for Color Image Processing	共著	2012年11月	Fifth International Conference on Intelligent Networks and Intelligent Systems	Lei SHENG, Kazuyoshi YOSHINO and Shanjun ZHANG	282-285頁
Design of Continuous Indoor Navigation System Based On INS and Wifi (査読付)	共著	2012年12月	2012 International Conference on Sensors, Measurement and Intelligent Materials (ICSMIM 2012), 2012 December 26-27, Guilin, China	Yi Hu, Lei Sheng, Shanjun Zhang	
A Study of Calligraphy Generation Method Based on Handwriting	共著	2013年10月	平成25年度電気情報関係学会北海道支部連合大会 H.155	Yi Hu, Lei Sheng, Shanjun Zhang	
カラー画像の顕著度マップによるモルフォロジー処理法	共著	2013年10月	平成25年度電気情報関係学会北海道支部連合大会 H.162	盛磊、胡毅、張善俊	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
	システム管理運営				
	企業内教育				
	個人研究 三次元医用画像処理				
	個人研究 知能ビジョンに関する研究				
1991年 5月～現在に至る	日本電子情報通信学会(国内学会)会員				
1994年10月～現在に至る	アメリカIEEE 会員				
1994年11月～現在に至る	IEEE(国際学会)会員				
1995年 6月～現在に至る	室蘭工業大学情報工学科「仮想現実世界構築・プレゼンテーションシステム」導入プロジェクト委員 委員				
1995年 8月～現在に至る	ニイハオ教育基金 副会長				
1996年 4月～現在に至る	International workshop on soft computing in industry96(IWSC196) 組織委員				
1996年 4月～現在に至る	室蘭工業大学情報工学科「情報教育用電子計算機システム」仕様作成委員(規模:スーパーコン一台、クライアントX端末120台)、管理委員 委員				
1998年 5月～現在に至る	室蘭工業大学附属図書館電子計算機システム技術審査委員 委員				
1998年10月～現在に至る	全日本中国人博士協会 第二期理事、国際交流委員会委員、事務局委員				

1999年 6月～現在に至る	International workshop on soft computing in industry99(IWSCl99) 組織委員
2001年 2月～現在に至る	全日本中国人博士協会 第4期理事、副事務局長
2001年 2月～現在に至る	大会事務局長 (中国WTO加盟と中日経済関係シンポジウム、日中友好会館、東京、2001年12月8日)
2001年 6月～現在に至る	全日本中国人博士協会年会2001・日中博士青年科学者交流大会 組織委員
2001年 7月～現在に至る	ニイハオ教育基金 (北海道) 第5期理事、副会長
2001年10月～現在に至る	全日本中国人博士協会年会2002 組織委員
2001年12月～現在に至る	大会事務局長 (中国WTO加盟と中日経済関係シンポジウム、日中友好会館、東京)
2002年 4月～現在に至る	株式会社スリーにインターネットと画像処理の特別講演。
2002年 7月～現在に至る	21世紀の科学技術および日中学術シンポジウム プログラム委員
2002年 7月～現在に至る	ニイハオ教育基金 (北海道) 第5期理事、副会長
2002年 7月～現在に至る	ニイハオ教育基金 (北海道) 第6期理事、副会長
2002年 7月～現在に至る	全日本中国人博士協会 第5期理事、事務局長
2002年 7月～現在に至る	全日本中国人博士協会 第5期理事、事務局長
2002年 9月～現在に至る	ニイハオ教育基金中国考察団団長
2002年11月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
2003年 2月～現在に至る	富士箱根中日国際学術シンポジウム'2003 プログラム委員長
2003年 9月～現在に至る	全日本新華僑華人会 常務理事
2003年12月～現在に至る	国際学術シンポジウム21世紀における科学技術の融合と発展－異分野の交流・浸透・再生 プログラム委員長
2004年11月～現在に至る	The third international conference on Information プログラム委員
2004年12月～現在に至る	The third international conference on Information, Special session on agriculture and engineering 座長
2005年 4月～現在に至る	画像電子学会(国内学会)会員
2007年 8月～現在に至る	Tenth International Conference on Fields Crossing, Fusion and Development (ICFCFD' 2007) プログラム委員長
2007年 8月～現在に至る	全日本中国人博士協会中国江蘇省研究協力訪問団 副団長
2007年 9月～現在に至る	International Conference on Innovative Computing, Information and Control '2007 Local Organizing Committee
2009年 3月～2011年 3月	国際共同研究 (中国長春大学)1,500,000円 携帯型中国語点字認識システムの開発
2009年 3月～現在に至る	福祉工学研究センター 中国長春大学客員教授
2009年11月～現在に至る	The 2nd International conferenct on Intelligent Networks and Intelligent Systems プログラム委員、座長
2010年 3月～現在に至る	海外研究協力 湖北省華僑連合会第九回海外委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 教授	氏名 内田 啓一郎	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
個別授業アンケート	2003年 4月 ～現在に至る	大学全体の一般的なアンケートと違い個別質問項目でアンケートを実施した。コメントを書いてくれる学生も多く、以降の授業運営に有効利用した。	
授業支援システムによるミニテストの実施	2003年 4月 ～現在に至る	計算機システム基礎、計算機アーキテクチャ、FYS、電子回路、情報基盤と情報倫理（今年度から）の授業において、毎週または隔週にミニテストを実施している。成績評価の一部にも利用。学生の理解度のチェックに有効。	
授業支援システムと各学生に配布されたPCでの授業実施	2003年10月 ～現在に至る	後期より、出席・ミニテスト・評価をWebベースで実施した。理学部教育用WSシステムでもe-learningシステムを使用予定。教育の効率化への試行。（総合理学研究所年報2003にて報告）	
e-learning教材の利用	2006年 4月 ～現在に至る	計算機アーキテクチャの授業では、私が主査として作成し、JSTが配布しているWebLearning教材を利用している。教科書として使用している（私の著作、共著）の本がこの教材のベースになっているので、学生にも好評である。とくに予習に使うと効果が上がるとの意見が多い。自習用教材として本教材を毎年、継続的に使用している。	
授業公開による授業へのコメント取得	2008年 6月 ～現在に至る	計算機アーキテクチャの授業公開を行い、2名に先生からコメントをいただいた。来年度の授業へ反映する予定。	
神奈川大学に教育支援システム（dotCampus）を導入。全学で使用開始。FD推進に貢献。	2009年 4月 ～現在に至る	メディア教育、情報システムセンター所長として全学でdotCampusを導入。全教員のFDを推進している。	
.Campusを利用したFD	2009年 9月20日 ～現在に至る	.Campusを利用して、授業資料の提示、ミニテスト実施、レポート課題提出などを行った。自動採点方式の導入など教育の質の向上と教育の効率化を行った	
21世紀基盤授業でのレポート提出	2009年11月13日 ～現在に至る	400名近い学生のうち200名程度の履修学生からのレポート提出を管理、評価を.campusのレポート管理システムを利用して行った。教育の質の向上をICT利用による教育作業の効率化が図られた。紙による提出では提出の有無を含め、問題があった。	

. Campusシステムを用いたオンラインテストの実施	2010年 9月20日 ～現在に至る	私が担当している全授業でオンラインミニテストを実施する。2009年度後期から導入し、今後は継続的に使用する。
オープンラボでロボット展示	2011年 7月 ～2011年10月	オープンラボ、平塚祭などに、ヒューマノイドロボットNAOを展示、ダンス、会話、人に近づく、物体認識持ち上げなど。小学生への英会話コミュニケーション（教育）は実現し来年度予定。
オープンラボでロボット展示	2012年 7月 ～2012年10月	オープンラボ、平塚祭などに、ヒューマノイドロボットNAOを展示、ダンス、会話、人に近づく、小学生への英会話コミュニケーションなど。
オープンキャンパスでロボット展示	2013年 7月14日 ～2013年 7月14日	ゲストに対してロボットの動作実演
2 作成した教科書、教材		
Web Pageに授業用資料を掲載（計算機システム基礎、計算機アーキテクチャ、計算機アーキテクチャ特論、電子回路）	2002年 4月 ～現在に至る	授業でのPresentation用の資料を自分のWebページに載せた。計算機システム基礎、計算機アーキテクチャ、計算機アーキテクチャ特論、電子回路用である。学生の理解を助ける手段として用いている。電子回路の講義では、オリジナル原稿をHPに掲載した。殆ど教科書に近いスタイルなのでより深い理解に役立つと思われる。その他すべての授業で実施。（現在も継続）2009年度から. Campusシステム上に掲載。
21世紀基盤科学用教材登録	2003年 9月10日 ～現在に至る	21世紀基盤科学の講義担当分として、先端科学技術分野におけるコンピュータ技術の利用が科学技術の発展に多大な貢献をしていること、それによって科学技術そのものの発展に寄与していることを示す授業資料を作成し、Webページに記載している。毎年資料内容を最新版に修正している。2009年度から. Campusシステム上に掲載。
情報処理学会監修「コンピュータアーキテクチャ」執筆	2004年 8月31日 ～現在に至る	大学の学生用に教科書を執筆
情報基盤と情報倫理の教材作成	2008年 3月 ～現在に至る	パワーポイントで授業用資料を作成。PDF化してWebに登録し学生に開放している。 その資料には私立大学情報教育協会のビデオ教材も利用している。なおこの教材は大学のメディア教育支援室のWebページから、学生がダウンロードして、閲覧可能にした。
情報基盤と情報倫理用教材作成(e-learning)	2009年 8月 1日 ～現在に至る	本授業のために. Campusシステムに対応する教材（パワーポイント配布資料の改良、オンラインミニテスト）を作成した。 . Campusシステム上の使いにくさ、不具合など指摘し、システムの改良に貢献した。 本授業のFDの推進とICT利用による教育作業の効率化を図った。
電子回路用教材作成（e-learnig）	2009年 8月 1日 ～現在に至る	電子回路用のオンラインミニテスト教材を作成した。テスト成績評価の自動化などFDの推進とICT利用による教育作業の効率化を行った。さらにパワーポイント資料の改良、追加および削除を行った。

計算機アーキテクチャ特論、計算機アーキテクチャ、計算機システム基礎授業用に授業用教材作成 (e-learning)	2010年 2月10日 ～現在に至る	計算機アーキテクチャ特論、計算機アーキテクチャおよび計算機システム基礎授業用に授業用配布資料を改良した。さらに後者の2つに対し、オンラインミニテストを作成した。これらの授業のFDの推進とICT利用による教育作業の効率化を図った。
情報科学特別講義用の授業資料の作成およびレポートなどのe-learning対応	2011年 9月 ～2015年 1月	情報科学特別講義：新規授業向けに授業資料、アンケート、レポートなどの作成。その後の授業資料変更等に対応。
計算機アーキテクチャ特論用に新規授業内容を追加。	2012年 4月 ～2013年 1月	上記授業用に新規授業項目の追加 その他の授業でも資料修正
情報科学実験2用教材の作成・修正	2014年 4月 1日 ～2014年 9月19日	急遽、以前担当していた本授業を再度担当することになったため、最新の授業内容に伴う旧資料の修正・補足などを行った。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
授業評価アンケート	2005年 1月 ～現在に至る	計算機システム基礎は難解であるとの評価で、講義内容レベルを下げることにした。その他の講義では資料、板書は平均より、評価が高かった。学生からの評価としてもWeb上の授業資料は好評である。ミニテストを毎週行っているが、評価が高い。
授業評価アンケート	2007年 1月 ～現在に至る	授業資料、教科書が役立ったとされた。1年生向けの計算機システム基礎についてはやさしい教材の作成の要望がある。今後の検討課題である。
教員による授業参加へのコメント	2008年 7月 ～現在に至る	授業内容については好評であった。ミニテストを授業支援システムにより、電子的に実施していることに高い評価があった。
2008年度授業評価アンケート	2008年 9月 ～現在に至る	計算機アーキテクチャの学生評価は好評である。WebLearning、ミニテストなど理解度を上げるための努力に対し、評価が高い。学生アンケートによれば、計算機システム基礎は講義内容が難しいとのことなので、教材の見直しを行う。後期、情報基盤と情報倫理の授業におけるアニメーションは好評。
2010年度授業評価アンケート	2010年 7月 ～2011年 1月	授業アンケートを実施した。学生からの意見を考慮して、さらに授業内容の充実を図る予定。
2012年度教育改善のための授業アンケート実施	2012年 7月 ～2013年 1月	授業アンケートを実施した。学生からの意見を考慮して、さらに授業内容の充実を図る予定。
グッドティーチャー賞の受賞	2013年12月13日 ～2013年12月13日	学内で教育における貢献に対し、グッドティーチャーの1人として受賞された。学内のe-learningシステム構築、無線LAN環境の設立が主な受賞理由である。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
なし		
5 その他		

なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
日本のコンピュータ史 (科学技術用高速計 算システム)	共著	2010年10月	(オーム社)	情報処理学会歴史特別委員会【 編】	
論文					
ロボットと心	単著	2013年 7月	Science Journal of Kanagawa University 2013		1-7頁
その他					
第3回次世代スパコン を知る集い 「スパコンを知ろう」		2010年 6月	(日本科学未来館)		
スパコン私の履歴書	単著	2011年 1月	計算工学 Vol 16(No 1)		44-49頁
神奈川大学高校生公開 講座		2012年 5月	(神奈川大学)		
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1968年 5月～現在に至る		情報処理学会(国内学会)会員			
1972年 4月～現在に至る		個人研究 コンピュータアーキテクチャ			
1990年 4月～現在に至る		個人研究 並列分散処理			
1997年 4月～現在に至る		個人研究 GRIDコンピューティング			
2002年 4月～現在に至る		ACM(国内学会)会員			
2002年 4月～現在に至る		情報処理学会HPC研究会(国内学会)会員			
2002年 4月～現在に至る		情報処理学会 アーキテクチャ研究会(国内学会)会員			
2003年 4月～現在に至る		ACM SIGARCH(国内学会)会員			
2003年 4月～現在に至る		IEEE CS(国内学会)会員			
2003年11月～2013年11月		パイオインフォマテックス学会(国内学会)会員			
2004年 8月～現在に至る		金沢大学にて計算機アーキテクチャ講義 非常勤講師			

2004年 9月～現在に至る	名古屋大学にてスーパーコンピュータについて講演 非常勤講師
2007年 4月～現在に至る	個人研究 クラウドコンピューティング
2007年 4月～現在に至る	情報処理学会 バイオインフォマティクス研究会 組み込みシステム研究会 システムLSI研究会(国内学会)会員
2011年 4月～現在に至る	個人研究 ロボットと人とのコミュニケーション
2012年 8月～2013年 3月	グローバルCOEプログラム委員会 専門委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 教授	氏名 桑原 恒夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
誤答に対するアドバイスをリアルタイムで学生に送信するeラーニングシステムの開発と授業での活用		2006年 9月 ～現在に至る	これまでのシステムを進化させ誤答内容ごとに学生をグループ化してそのグループに同報でアドバイスを送信することで学生の支援を充実させたシステムを作成し、授業で活用している。授業後には学生の解答履歴の分析も行え、学生の思考過程を検証することもできる。なお、開発システムおよびこれを用いた授業実践について原著論文にまとめ、発表している。
学生による授業評価アンケート結果の活用		2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：心の情報処理) 科目の位置づけがわからないという指摘をした学生がいた。本講義は理系的な側面と心理学を含む文系的な側面があり、情報科学科の学生の中には後者の内容に不慣れであるものも多いため、このような指摘があったと考えた。そこで次年度の授業では、具体的な事例をより前面に押し出すように計画している。 (授業科目：オブジェクト指向プログラミング) 所属学科の平均的評価値より良好な評価であったが、これは独自に作成し演習に使用しているeラーニングシステムによるところが多いと考えられる。(同系統の授業である後期のプログラミング1よりも大分評価が高い。プログラミング1では受講学生全員にはノートPCが貸与できていないため、上述のeラーニングシステムが使用できず紙ベースの演習問題を行っている。)したがって今後のこのeラーニングシステムの使用を継続して教育していくつもりである。
理学部レポート管理システムの導入と利用(リアルタイムの個別・双方向の指導の実践)		2013年 9月 ～現在に至る	理学部レポート管理システムの導入に主導的な役割を果たした(2012年4月より導入, 2013年3月バージョンアップ)。またプログラミング1演習の授業でこのシステムを使い、授業内で学生のレポートをリアルタイムかつ対面で指導・修正させるいわゆる個別・双方向の指導を行っている。
2 作成した教科書、教材			

心の情報処理の教材作成	2008年 3月 ～現在に至る	認知・感性の基本特性からヒューマンインタフェースのユーザビリティ設計・評価、マニュアル設計法などについて授業を受ける学生に配布するレジュメの作成。
プログラミング演習1の問題集（共著）	2008年10月 ～現在に至る	プログラミング演習1の担当者全員で過去3年間の問題を冊子にまとめ、受講学生に配布した。
オブジェクト指向プログラミングの重要な諸要素を取り入れたサンプルプログラムとその説明図面（クラス図）の作成	2009年 3月27日 ～現在に至る	オブジェクト指向の重要な要素であるインスタンス化、継承、インタフェース、クラス変数・クラスメソッドの使用、集約、ユーザインタフェースを取り入れつつ全体として極めてコンパクトなサンプルプログラムを作成すると共に、このサンプルプログラムの全体像を鳥瞰できるクラス図を作成した。来年度の授業より利用していく。これだけの要素を含みながら、おそらく1コマの授業時間で説明可能であろうと考えている。
プログラミング演習1の問題集第2版（共著）	2011年 9月 ～現在に至る	プログラミング演習1の問題集第2版をプログラミング演習1の担当者全員で作成した。
Webアプリケーション用教材	2014年 8月 ～現在に至る	今年度より開始する科目「Webアプリケーション」の自分の担当回部分（第2回、第3回）の教材を作成した。具体的内容はHTML5.0とCSS.
プログラミング1演習、プログラミング演習1の問題集第3版（共著）	2014年 8月 ～現在に至る	プログラミング演習1、プログラミング演習1の問題集第3版を、担当教員全員で作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
2008年前期授業評価アンケート	2008年 9月 1日 ～現在に至る	（授業科目：心の情報処理）所属学科である情報科学科の平均値とおおむね同じ評価であった。 （授業科目：オブジェクト指向プログラミング）所属学科である情報科学科の平均値よりだいぶ良い評価であった。
2008年後期授業評価アンケート	2009年 3月27日 ～現在に至る	2クラスで実施しているプログラミング1の授業評価を受けた。その結果、「全体としての満足度」で、所属学科平均3.3に対し、1クラスは3.6、もう1クラスは3.4と評価結果が大きく異なった。その他の項目でも2クラスの評価傾向は同じようであった。同じ対象者（情報科学科1年生が主な対象者）にもかかわらず、これだけ大きな差がついたのだが、この結果は授業しているときの学生の態度と大きな相関があった。評価の良いクラスは全体として静かで、悪いクラスは私語が多く毎回何度も静かにするように注意し、時にはきつく叱った。同じ内容を同じように教えているのだが、一つの違いは受講者数である。評価の良いクラスの全受講者数は68名で悪いクラスの全受講者数は103名であった。この受講者数の均衡を図ることが1つの方策かもしれない。
神奈川大学グッドティチャー賞	2012年 3月31日 ～現在に至る	プログラミング演習1の授業に対し、担当者全員のグループ受賞として神奈川大学グッドティチャー賞を受けた。またグループ代表として授賞式に出席した。

4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
ハイパーリンクを用いた情報提供用電子文書の平均探索時間に影響を及ぼすいくつかの要因に関する実験的考察	共著	2010年 7月	Science Journal of Kanagawa University 21	田中健史、川口修、 <u>桑原恒夫</u>	7-11頁
日本のSNS利用者の書き込み記事に対する主観的信頼度の調査	共著	2010年 7月	Science Journal of Kanagawa University 21	石渡僚、 <u>桑原恒夫</u>	13-16頁
中学数学の問題における図面の影響についての実験的検討	共著	2011年 6月	Science Journal of Kanagawa University 22	池田博美、 <u>桑原恒夫</u>	71-74頁
教員のアドバイスを分析する機能を持つエラーニングシステムおよびそれを用いた教育結果(査読付)	共著	2013年 5月	日本教育工学会論文誌 37(1)	<u>桑原恒夫</u> 、田中健史	89-96頁
その他					
操作履歴記録機能を持つユーザビリティ評価用GUI簡易作成ツール(VICTORY)の開発	共著	2011年 9月	ヒューマンインタフェースシンポジウム2011	佐々木優、 <u>桑原恒夫</u>	2501D, pp583-586頁

神奈川大学メディア教育シンポジウム		2012年11月	(横浜)		
iPadを用いた野球用電子スコアブックの開発	共著	2013年 3月	情報処理学会第75回全国大会 5ZB-6	小松佐寛、桑原恒夫	
様々な業種で利用可能な勤務計画作成支援システムの提案	共著	2014年11月	グループウェアとネットワークサービスワークショップ 2014 The 11th GN Workshop 2014 論文集, 2014	遠藤祐司, 桑原恒夫	
様々な事業体で利用できる交代制勤務計画作成支援システム	共同	2015年 2月	第36回工業技術見本市 テクニカルショウヨコハマ2015(横浜市)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		日本教育工学会(国内学会)会員			
		日本認知科学会(国内学会)会員			
		電子情報通信学会会員			
1993年～現在に至る		個人研究 e-Learning, GUIのユーザビリティ評価・設計、ITを利用したビジネスモデル構築			
2006年 6月～2013年 8月		講演会の企画・運営			
2011年 8月～現在に至る		ヒューマンインタフェース学会(国内学会)会員			
2012年 8月～2012年 8月		せやこども大学での講義			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 教授	氏名 永松 礼夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
プログラミングII 講義 (前期科目)		2005年 4月 1日 ～現在に至る	
プログラミング演習1 (後期科目)		2005年 9月20日 ～現在に至る	
情報システム構成法特論 (大学院講義・後期)		2005年 9月20日 ～現在に至る	
情報科学実験 I ・ハードウェア実験 (後期科目)		2005年 9月20日 ～現在に至る	
学部3年次科目「分散処理」		2006年 9月20日 ～現在に至る	
学部2年次科目「コンピュータ・ネットワーク」		2010年 9月 ～現在に至る	
2 作成した教科書、教材			
情報科学実験I ハードウェア実験 実験手引き書 (毎年改訂)		2005年 9月 1日 ～現在に至る	
プログラミング1 演習の自習教材集 (過去に作成したオリジナル課題を共同編集)		2008年 9月 ～現在に至る	
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
なし			
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
なし			
5 その他			
情報科学科の将来ビジョン策定のための談話会：カリキュラム改革や改組について学科内有志の検討会		2007年 7月 ～現在に至る	
II 研究活動			

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
JavaScriptによる自己 再生的プログラムの構 成方式について	共著	2011年11月	情報処理学会プログラミ ング研究会 2011-3-(12)	永松礼夫、東方雄亮、大川哲史	
日本語テンプレートの 展開・再構成が可能な 初心者向けプログラミ ング環境	共著	2013年 9月	FIT2013 第12回情報科学 技術フォーラム	大川哲史 永松礼夫	K-033頁
「大学情報入試全国模 擬試験」の実施と評価	共著	2014年 8月	情報教育シンポジウム SSS2014 予稿集(情報 処理学会)	中野由章(神戸市立科学技術高等 学校)、谷聖一(日本大学)、笈捷 彦(早稲田大学)、村井純(慶應義 塾大学)、植原啓介(慶應義塾大 学)、中山泰一(電気通信大学)、 伊藤一成(青山学院大学)、角田 博保(電気通信大学)、久野靖(筑 波大学)、佐久間拓也(文教大学)、鈴木貢(島根大学)、辰己丈 夫(放送大学)、永松礼夫(神奈川 大学)、西田知博(大阪学院大学)、松永賢次(専修大学)、山崎 浩二(明治大学)	
その他					
高校教員向け情報処理 講習会		2010年 8月	(平塚キャンパス)		
授業時間内での頻繁な 再提出に対応するレポ ート管理システムの現 状と課題	単独	2012年11月	メディア教育シンポジウ ム(横浜)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

年月	内容
	Association for Computing Machinery(国際学会)会員
	電子情報通信学会(国内学会)会員
1981年 5月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
1981年 5月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)アーキテクチャ研究会会員
1981年 5月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)オペレーティングとシステム・ソフトウェア研究会会員
1981年 7月～現在に至る	Association for Computing Machinery(国際学会)会員
1981年 7月～現在に至る	Association for Computing Machinery(国際学会)Association for Computing Machinery SIGARCH会員
1981年 7月～現在に至る	Association for Computing Machinery(国際学会)Association for Computing Machinery SIGPLAN会員
1985年 6月～現在に至る	計測自動制御学会(国内学会)会員
1990年10月～現在に至る	日本ソフトウェア科学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 分散処理システム
2005年 4月～現在に至る	個人研究 情報システムの構成法
2008年 4月～現在に至る	個人研究 ソフトウェアの動的変更に関する研究
2011年 8月～2011年12月	電子情報通信学会(国内学会)論文誌「情報・システム：D」 査読者
2012年 4月～現在に至る	情報入試研究会 メンバー
2012年 4月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)コンピュータと教育研究会・運営委員
2013年 4月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)論文誌編集委員会
2013年10月～現在に至る	キミのミライ発見「(情報)入試問題を授業で活用」 監修および更新情報提供
2014年 3月～2014年 3月	東京都立町田高等学校 情報科総合実習発表会 助言者

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 教授	氏名 田中 賢	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
ブロック分割によるパ ケット最適化問題の一 解法 (査読付)	共著	2011年	電子情報通信学会論文誌 Vol. J94-B(No. 10)	三河賢治, 田中賢, 小出淳一	pp. 1408 - 1417頁

Predicting Quality Requirements Necessary for a Functional Requirement based on Machine Learning (査読付)	共著	2012年11月	ICSEA2012	<u>Ken Tanaka</u> , Haruhiko Kaiya and Atsushi Ohnishi	pp. 540-547頁
Heuristic Algorithm for Reconstructing a Packet Filter with Dependent Rules (査読付)	共著	2013年 1月	IEICE Trans. E96-B(01)	<u>Ken Tanaka</u> , Kenji Mikawa and Manabu Hikin	pp. 155-162頁
Optimization of packet filter with maintenance of rule dependencies (査読付)	共著	2013年 2月	IEICE Communications Express 2(2)	<u>Ken Tanaka</u> , Kenji Mikawa and Kouhei Takeyama	pp. 80-85頁
機能要求に必要な品質要求の機械学習による予測法 (査読付)	共著	2013年11月	電子情報通信学会 J96-D(11)	田中賢、海谷治彦、大西淳	
Lexicographic ranking and unranking of derangements in cycle notation (査読付)	共著	2014年 6月	Discrete Applied Mathematics 10. 1016/j. dam. 2013. 10. 001	Kenji Mikawa and <u>Ken Tanaka</u>	
その他					
パケットフィルタリングルールの最適配置法	共著	2010年 9月	第9回情報科学技術フォーラム講演論文集 第4分冊	嶋 良平, 田中 賢	253-254頁
パケットフィルタリングの多段化による遅延の軽減法	共著	2011年	第10回情報科学技術フォーラム	阿部貴紀, 田中賢, 三河賢治	pp. 177 - 178頁
フィルタリングルール最適配置問題の解法	共著	2011年	第10回情報科学技術フォーラム	嶋良平, 田中賢, 三河賢治	pp. 175 - 176頁

任意のビットマスクに対応した階層型トライの提案	共著	2011年	電子情報通信学会総合大会	長谷川創, 三河賢治, 田中賢	pp. 197 - 197頁
制約ルール集合上のパケット分類の領域計算量に関する考察	共著	2011年	電子情報通信学会ソサイエティ大会	三河賢治, 田中賢	pp. 25 - 25頁
多段化によるパケットフィルタリングの効率化	共著	2011年	電子情報通信学会総合大会	阿部貴紀, 田中賢, 三河賢治	pp. 563 - 563頁
攪乱順列の線形時間ランダム生成について	共著	2012年 1月	電子情報通信学会技術研究報告書 112(273)	三河賢治, 田中賢	pp. 53-58頁
フィルタリングポリシー記述言語でのルール最適化について	共著	2012年 9月	2012年度電子情報通信学会ソサイエティ大会講演論文集	秋山匠, 田中賢, 三河賢治	pp. 93頁
パケットフィルタリング最適化法の有効性について	共著	2013年 9月	L-032	野村圭太, 田中賢, 三河賢治	
符号化を必要としない攪乱順列の線形時間ランキングとアンランキングについて	共著	2013年 9月	2013年ソサイエティ大会講演論文集 A-1-17	三河賢治, 田中賢	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
1993年 4月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)会員				
1996年 4月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員				
2004年 4月～現在に至る	個人研究 並列計算量				
2004年 4月～現在に至る	電気学会(国内学会)会員				
2005年 4月～現在に至る	IEEE(国内学会)会員				
2005年 4月～現在に至る	個人研究 最適パケットフィルタリング構成法				
2006年 4月～現在に至る	個人研究 言語獲得のモデル				
2011年 4月～2014年 3月	科学研究費補助金 5,070,000円 「基盤研究(C)」通信の遅延を最小化する最適パケットフィルタの実現(研究代表者)				
2012年 4月～2015年 3月	科学研究費補助金 1,200,000円 「基盤研究(C)」悪質なサイトからの攻撃的な通信を遮断するコンテンツフィルタの実現(研究分担者)				

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 教授	氏名 松尾 和人	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
情報セキュリティ大学院大学「研究指導」		2004年 4月 ～2012年 3月	指導学生のバックグラウンドが様々であるので、個別研究指導を行う前に基礎知識を輪講形式のゼミで修得させた。また、ゼミ運営を学生に行わせることで、研究活動に対する自主性を醸成した。更に、最新の論文の輪講を行うことで、研究の現状と課題を正確に把握させるとともに、技術論文の読解力を醸成した。これらのゼミの中から学生の研究テーマを決定し、その後は個別指導による密な研究指導を行った。特に個別指導の際には、レポートの提出を義務付け、これを用いて議論を行うことで、厳密な議論作法を修得させるとともに、技術文書の作成方法をも修得させた。更には学生を研究テーマに関連する学会に積極的に参加させ、自身の研究テーマの重要性を認識させることで、自身の研究への積極的な取り組みを喚起した。
2段組みプレゼンテーションスライドの活用（情報セキュリティ大学院大学「計算代数」「アルゴリズム基礎」「暗号・認証と社会制度」、神奈川大学「情報セキュリティ」）		2008年 4月 1日 ～現在に至る	当該科目では、数式を多用するので板書で行う授業が好ましい面もあるが、詳細なアルゴリズムやシステム構成、数値例なども示すために、プロジェクターを用いたプレゼンテーションにより講義を行っている。しかし、プロジェクターを用いた授業では板書の授業と違い以前に登場した数式を引用するのが困難である。そこで、投影スライドを2段組みにし、一画面に説明中のスライドとともに一枚前のスライドを投影するようにした。この際、画面と植井サイズを最大限に利用することで、一枚のスライドの情報量が十分確保されるように工夫した。さらに、説明中のすらいどと一枚前のスライドを同時投影する形式のスライドファイルを自動構成するプログラムを作成し、効率的に教材作成を行えるようにした。
ノートへの書き写しを意識した板書の工夫（神奈川大学・離散数学I, II）		2012年 4月 1日 ～現在に至る	該当科目では数式が多いため板書をすべてノートに書き写すように学生を指導している。このときに、学生のノート取りが効率的に行えるように、ノートの大きさを意識して板書を行っている。特に、ノートに写した際には行の折り返しが発生せずメモを取る余白をつくるために、一枚の黒板の中心に固定線を引き2段組みで板書を行っている。

2	作成した教科書、教材					
	なし					
3	教育上の能力に関する大学等の評価					
	情報セキュリティ大学院大学「優秀論文賞」	2004年 4月 ～2012年 3月	情報セキュリティ大学院大学に在籍中に指導した2名の学生の修士論文が学内の審査により「優秀論文賞」を受賞した。			
	情報セキュリティ大学院大学「科目等履修生」	2004年 4月 ～2012年 3月	客観評価は受けていないが、担当科目「アルゴリズム基礎」に大手メーカーの技術者複数名が科目等履修生として派遣されており、社会的に評価されていた。			
4	実務の経験を有する者についての特記事項					
	なし					
5	その他					
	電子情報通信学会学術奨励賞	1999年 3月 ～現在に至る	指導教員と共同で研究指導を行った中央大学大学院電気電子工学専攻の側高幸治君が、1998年電子情報通信学会ソサエティ大会で共同発表した「CM TestとLiftingによる安全な楕円暗号系の構成法の実現と解析」に対して、「電子情報通信学会学術奨励賞」を受賞した。			
	電子情報通信学会ISEC専門委員会SCIS論文賞	2003年 1月 ～現在に至る	指導教員と共同で研究指導を行った中央大学大学院情報工学専攻の飯島努君が、2002年電子情報通信学会暗号と情報セキュリティシンポジウムで共同発表した「Construction of Frobenius maps of twists elliptic curves and its application to elliptic scalar multiplication」に対して、「SCIS論文賞」を受賞した。			
	電子情報通信学会ISEC専門委員会SCIS論文賞	2005年 1月 ～現在に至る	指導教員と共同で研究指導を行った中央大学大学院情報工学専攻の権田正樹君が、2004年電子情報通信学会暗号と情報セキュリティシンポジウムで共同発表した「Improvements of addition algorithm on genus 3 hyperelliptic curves and their implementations」に対して、「SCIS論文賞」を受賞した。			
	情報処理学会コンピュータセキュリティ研究会CSS学生論文賞	2011年10月 ～現在に至る	研究指導を行った情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ専攻の野村大翼君が、2011年情報処理学会コンピュータセキュリティシンポジウムで共同発表した「Bluetoothのセキュアシンプルペアリングに対する中間者攻撃」に対して、「CSS学生論文賞」を受賞した。			
II 研究活動						
	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
	著書					

素数全書—計算からのアプローチ—	共著	2010年 9月	(朝倉書店)	和田秀男監訳。木田雅也、松尾和人、木村巖、佐藤篤、長谷川雄之訳	
応用数理ハンドブック	共著	2013年10月	(朝倉出版)	日本応用数学会監修。薩摩順吉、大石進一、杉原正顯編集	
論文					
超楕円曲線と位数計算	単著	2010年10月	情報セキュリティ総合科学 Vol. 2、pp. 43-61		
Bluetoothのセキュアシンプルペアリングに対する中間者攻撃 (査読付)	共著	2012年 9月	情報処理学会論文誌 53(9)	野村大翼、松尾和人	2225-2233頁
Sutherlandの位数計算法について	共著	2015年 1月	電子情報通信学会2015年暗号と情報セキュリティシンポジウム予稿集、1F2-3	磯田遼、松尾和人	
その他					
Bluetoothのセキュアシンプルペアリングに対する中間者攻撃	共著	2011年10月	コンピュータセキュリティシンポジウム2011 論文集	野村大翼、松尾和人	486-491頁
「数論アルゴリズムとその応用」研究部会の紹介	単著	2012年12月	JSIAM Online Magazine Article: I1208B		
既約因子の次数に制限がある多項式の因数分解について	共著	2014年 1月	電子情報通信学会2014年暗号と情報セキュリティシンポジウム予稿集、1C2-3	小崎俊二、松尾和人	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1986年 4月～現在に至る		電子情報通信学会(国内学会)会員			

1990年 4月～現在に至る	日本応用数学会(国内学会)会員
2002年 5月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会) ソサエティ誌編集委員会査読委員
2006年 1月～現在に至る	国際暗号学会(国際学会)会員
2006年 4月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
2007年10月～2011年 3月	その他の補助金・助成金(文部科学省)336,100,000円 「研究拠点形成費等補助金(先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム)」研究と実務融合による高度情報セキュリティ人材育成プログラム(研究分担者)
2008年 5月～現在に至る	日本応用数学会(国内学会)「数論アルゴリズムとその応用」研究部会幹事
2009年 8月～2011年 3月	その他の補助金・助成金(神奈川県)2,177,000円 「大学発・政策提案制度」情報セキュリティ事故対応技術に関する教材の作成(研究分担者)
2010年 1月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)基礎・境界ソサエティ『Special Section on Cryptography and Information Security』英文小特集編集委員
2011年 5月～2012年 3月	その他の補助金・助成金(文部科学省)27,000,000円 「私立大学戦略的基盤形成支援事業」暗号技術の導入による機密情報の適切な保護方式の研究ーグローバル社会における持続可能な経済発展のための基盤技術として(研究分担者)
2011年 5月～2015年 3月	日本応用数学会(国内学会)JSIAM Letters 編集委員
2011年10月～2012年10月	情報処理学会(国内学会)2012年コンピュータセキュリティシンポジウム実行委員
2013年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 2,860,000円 「基盤研究(C)」暗号に利用するための高速な超楕円曲線の構成法と関連する数論アルゴリズムの効率化(研究代表者)
2013年 9月～現在に至る	その他の補助金・助成金(通信放送機構)155,298,000円 組織間の機密通信のための公開鍵システムの研究開発(研究分担者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 教授	氏名 木下 佳樹	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

A design for an assessment procedure for dependability based on a formal model, in "Proceedings of The Second IASTED International Conference on Advances in Management Science and Risk Assessment (AMSRA2010)" (査読付)	共著	2010年11月	((電子出版))	Keishi Okamoto, Yoshiki Kinoshita, Takahiro Seino, Noriaki Izumi, Koichi Hashida and Hiroki Takamura	
Assurance Case as a Proof in a Theory: towards Formulation of Rebuttals, in "Assuring the Safety of Systems, Proceedings of the Twenty-first Safety-Critical Systems Symposium, Bristol, UK, 5-7th February 2013" (査読付)	共著	2013年 3月	(Safety-Critical Systems Club on Amazon (http://www.amazon.co.uk/Assuring-Safety-Systems-Twenty-first-Safety-critical/dp/1481018647), ISBN 978-1481018647)	<u>Yoshiki Kinoshita</u> and Makoto Takeyama	205-230頁
論文					
A field-scientific approach to Clinico-Informatics (査読付)	共著	2010年 7月	Synthesiology (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) 3(1)	<u>Yoshiki Kinoshita</u> and Toshinori Takai	64-76頁

記述の科学 第1回 記述とは、(査読付)	共著	2010年 8月	『情報処理』(情報処理 学会) 51(8)	木下佳樹、高井利憲	1049-1057頁
記述の科学 第2回 視点と形式的体系(査 読付)	共著	2010年 9月	『情報処理』(情報処理 学会) 51(9)	木下佳樹、高井利憲	1204-1214頁
記述の科学 第3回 記述の構成と利用(査 読付)	共著	2010年10月	『情報処理』(情報処理 学会) 51(10)	木下佳樹、高井利憲	1332-1340頁
A Coalgebraic Approach to Supervisory Control of Partially Observed Mealy Automata (査読付)	共著	2011年	Algebra and Coalgebra in Computer Science - 4th International Conference, CALCO 2011, Winchester, UK, August 30 - September 2, 2011. Proceedings (Springer-Verlag) 6859	Jun Kohjina, Toshimitsu Ushio and Yoshiki Kinoshita	253-267頁
Using a Proof Assistant to Construct Assurance Cases Corectness by Construction (Fast Abstract)	共著	2012年	Proceedings of the 42nd Annual IEEE/IFIP International Conference on Dependable Systems and Networks (DSN 2012)	Makoto Takeyama, Hiroyuki Kido and <u>Yoshiki Kinoshita</u>	
帰納と再帰一表示的意 味論の第一歩(査読付)	単著	2012年 1月	『コンピュータソフトウ ェア』(岩波書店) 29(1)		30-46頁
Category theoretic structure of setoids (査読付)	共著	2014年 8月	Theoretical Computer Science (Elsevier) 546	<u>Yoshiki Kinoshita</u> John Power	145-163頁
その他					

オープンシステムディ ペンダビリティと利用 者指向～課題と解決へ のアプローチ～	共著	2010年 7月	『第8回ディペンダブル システムワークショップ 予稿集』日本ソフトウェ ア科学会	和泉憲明・岡本圭史・木下佳樹 ・高井利憲・高村博紀・田口研 治・武山誠・水口大知	
妥当性確認とアシュラ ンスケース (独)科学技術振興機構 研究開発戦略センタ ー システム科学ユニ ット 第8回システム 科学検討会		2014年 6月	(東京)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1987年10月～現在に至る		日本ソフトウェア科学会(国内学会)会員			
2002年 4月～現在に至る		情報処理学会(国内学会)会員			
2008年10月～2014年 3月		競争的資金等の外部資金による研究 (科学技術振興機構)230,000,000円 利用者指向ディペンダビリティの研究			
2008年12月～現在に至る		情報処理学会 情報規格調査会 ISO/IEC JTC1 Information technology SC7 Systems and software engineering WG7 Life cycle management 国内小委員会 委員			
2010年 4月～現在に至る		日本規格協会 IEC TC56 Dependability WG4 System aspects of dependability 国内小委員会 委員			
2011年10月～現在に至る		Liaison from IEC TC56 Dependability to ISO/IEC JTC1 Information technology SC7 Systems and software engineering Liaison officer			
2012年 4月～2014年 3月		国内共同研究 (国立情報学研究所 共同研究プロジェクト)議論の枠組みに関する基礎理論および応用に関する研究			
2012年10月～現在に至る		IEC TC56 Dependability WG4 System aspects of dependability Convener			
2012年10月～現在に至る		Liaison from ISO/IEC JTC1 Information Technology SC7 Software Engineering to IEC TC56 Dependability Liaison officer			
2013年 1月～現在に至る		IEC TC56 Dependability PT 4.8 Open Systems Dependability Project leader			
2014年 2月～現在に至る		社団法人 DEOS協会 標準化部会 主査			
2014年 4月～現在に至る		IEC TC56 ディペンダビリティ 国内委員会 WG4 情報システム 主査			
2014年 6月～現在に至る		科学技術振興機構 研究開発戦略センター システム科学技術分野俯瞰報告書 執筆協力者			
2014年 6月～現在に至る		競争的資金等の外部資金による研究 (独立行政法人 情報処理推進機構)27,989,000円 オープンシステム・ディペンダビリティのための 形式アシュランスケース・フレームワーク			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 特別助手	氏名 韓 浩	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
大学院生（博士後期課程）の指導	2009年 4月 1日 ～現在に至る	東京工業大学の教授を協力して、大学院博士後期課程学生の研究の指導補助および実験指導を行っている。 博士学位取得 1名、 在学中 1名	
卒論の指導	2013年 4月 1日 ～現在に至る	学部生（5人）の卒論研究の指導	
卒論の指導	2014年 4月 1日 ～2015年 3月 1日	学部生（3人）の卒論研究の指導	
大学院生（博士前期課程）の指導	2014年10月 1日 ～現在に至る	神奈川大学の教授を協力して、大学院生（1名）の研究の指導補助および実験指導を行っている。	
2 作成した教科書、教材			
プログラミング演習（C言語）の課題作成	2014年 4月 1日 ～現在に至る		
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
なし			
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
産学交流	2007年 9月19日 ～現在に至る	「Web Information/Knowledge Retrieval and Integration」 , Martsoft Corp, Santa Clara, CA, USA	
国立情報学研究所オープンハウス	2011年 6月 ～現在に至る	「Webのサービスをリサイクルしましょう！」	
国立情報学研究所オープンハウス	2012年 6月 ～現在に至る	「ソーシャルメディアに基づく閲覧行動の分析と集合知の活用」	
5 その他			

その他の業務		2013年 4月 1日 ～現在に至る	学科サーバの管理、 理学部ノートPCの管理、 理学部安全委員会委員、 教職員組合代議員、 海外研究者の訪問講演を依頼する		
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Analysis and Design: Towards Large-Scale Reuse and Integration of Web User Interface Components (査読付)	共著	2013年11月	(Information Reuse and Integration In Academia And Industry (Springer Verlag))	Hao Han, Peng Gao, Yinxing Xue, Chuanqi Tao, Keizo Oyama	133-162頁
論文					
Deep Mashup: A Description-based Framework for Lightweight Integration of Web Contents (査読付)	共著	2010年 4月	19th International Conference on World Wide Web	Hao Han, Junxia Guo, and Takehiro Tokuda	1109-1110頁
Partial Information Extraction Approach to Lightweight Integration on the Partial Information Extraction Approach to Lightweight Integration on the web (査読付)	共著	2010年 7月	2nd International Workshop on Light weight Integration on the Web	Junxia Guo, Prach Chaisatien, Hao Han, Tomoya Noro, and Takehiro Tokuda	372-383頁

Towards Flexible and Lightweight Integration of Web Applications by End-User Programming (査読付)	共著	2010年10月	International Journal of Web Information Systems (Emerald Group Publishing Limited) 6(4)	<u>Hao Han</u> , Takehiro Tokuda	359-373頁
Problems, Solutions and New Opportunities: Using Pagelet-Based Templates in Development of Flexible and Extensible Web Applications (査読付)	共著	2010年11月	12th International Conference on Information Integration and Web-based Applications & Services	<u>Hao Han</u> , Bo Liu	677-680頁
Towards Flexible Mashup of Web Applications Based on Information Extraction and Transfer (査読付)	共著	2010年12月	11th International Conference on Web Information System Engineering	Junxia Guo, <u>Hao Han</u> , and Takehiro Tokuda	602-615頁
Quick Acquisition of Topic-based Information/Knowledge from News Site Databases (査読付)	単著	2011年 7月	23rd International Conference on Software Engineering and Knowledge Engineering		343-348頁
Retrieval, Description and Security: Towards the Large-Scale UI Component-Based Reuse and Integration (査読付)	共著	2011年 8月	12th International Conference on Information Reuse and Integration	<u>Hao Han</u> , Peng Gao, and Keizo Oyama	193-199頁

From Toys to Products: A Step Towards Supporting the Robust Reuse and Integration on the Web (査読付)	共著	2012年 2月	6th International Conference on Ubiquitous Information Management and Communication	Peng Gao and <u>Hao Han</u>	(9 pages)頁
IAAS: An Integrity Assurance Service for Web Page via a Fragile Watermarking Chain Module (査読付)	共著	2012年 2月	6th International Conference on Ubiquitous Information Management and Communication	Peng Gao, <u>Hao Han</u> , and Takehiro Tokuda	(10 pages)頁
An Evolving Hybrid Mechanism for Stable Partial Information Extraction (査読付)	共著	2012年 6月	22nd European-Japanese Conference on Information Modelling and Knowledge Bases	Peng Gao, <u>Hao Han</u> , and Takehiro Tokuda	71-84頁
Client-Side Rendering Mechanism: A Double-Edged Sword for Browser-Based Web Applications (査読付)	共著	2012年 7月	24th International Conference on Software Engineering and Knowledge Engineering	<u>Hao Han</u> , Yinxing Xue, and Keizo Oyama	124-130頁
An Exploratory Analysis of Browsing Behavior of Web News on Twitter (査読付)	共著	2012年12月	2012 ASE/IEEE International Conference on Social Informatics	<u>Hao Han</u> , Hidekazu Nakawatase, and Keizo Oyama	86-95頁
Stable Partial Information Extraction: A Self-Evolving Hybrid Mechanism (査読付)	共著	2013年 9月	Frontiers in Artificial Intelligence and Applications (IOS Press) 251	Peng Gao, <u>Hao Han</u> , and Takehiro Tokuda	49-63頁

Analyzing Query Trails and Satisfaction based on Browsing Behaviors (査読付)	共著	2013年10月	The 10th Web Information Systems and Applications Conference	Junxia Guo, Cheng Gao, Nanshan Xu, Gang Lu, and Hao Han	
Analysis and Design of Programmatic Interfaces for Integration of Diverse Web Contents (査読付)	共著	2013年12月	International Journal of Software Engineering and Knowledge Engineering 23(10)	Junxia Guo and <u>Hao Han</u>	1487-1511頁
Context Oriented Analysis of Interest Reflection of Tweeted Webpages based on Browsing Behavior (査読付)	共著	2013年12月	15th International Conference on Information Integration and Web-based Applications & Services	<u>Hao Han</u> , Hidekazu Nakawatase, and Keizo Oyama	34-43頁
Mashup Technology: Beyond Open Programming Interfaces (査読付)	共著	2013年12月	IEEE Computer 46(12)	Hao Han, Yinxing Xue, and Keizo Oyama	96-99頁
Extraction News from Server Side Databases by Query Interfaces (査読付)	単著	2014年 1月	Journal of Computer Information Systems 54(2)		57-65頁
部分情報抽出に基づく Web サービス関数の自動生成法	単著	2014年 4月	Science Journal of Kanagawa University 25		31-38頁
Practice and Evaluation of Pagelet-Based Client-Side Rendering Mechanism (査読付)	共著	2014年 8月	IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems E97-D(8)	<u>Hao Han</u> , Yinxing Xue, Keizo Oyama, Yang Liu	2067-2083頁

A Method for Facilitating End-user Mashup Based on Description (査読付)	共著	2014年 9月	International Journal of Web Engineering and Technology 9(2)	Junxia Guo, <u>Hao Han</u>	99-124頁
Evaluating credibility of interest reflection on Twitter (査読付)	共著	2014年10月	International Journal of Web Information Systems 10(4)	<u>Hao Han</u> , Hidekazu Nakawatase, Keizo Oyama	343-362頁
その他					
マイクロブログ上のWebニュース閲覧行動分析	共著	2011年 3月	電子情報通信学会WI2研究会 WI2-2011	韓浩, 中渡瀬秀一, 大山敬三	
Towards Supporting the Robust Large-scale Reuse and Integration on the Web	共著	2011年 9月	日本ソフトウェア科学会 第28回大会 1E-4	Peng Gao, <u>Hao Han</u> , and Takehiro Tokuda	
Beyond Open Programming Interfaces: Optimism and Pessimism, 1st Annual World Congress of Emerging InfoTech		2012年 8月	(Dalian, China)		
ウェブページのツイート行動への関心反映度に関するブラウザ行動のコンテキストに注目した分析	共著	2013年 7月	データ工学研究会 113(150)	韓浩, 中渡瀬秀一, 大山敬三	157-162頁
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2004年 4月～現在に至る		国際共同研究 (群馬大学、東京工業大学、国立情報学研究所、シンガポール国立大学、神奈川大学)クライアントサイドレンダリングメカニズムに基づくWebアプリケーション生成系			
2006年 4月～現在に至る		国際共同研究 (東京工業大学、北京化工大学、神奈川大学)Web上の部分情報の抽出とその応用			

2006年 4月～現在に至る	日本ソフトウェア科学会(国内学会)会員
2010年 4月～現在に至る	国内共同研究 (国立情報学研究所、神奈川大学)ソーシャル・ネットワーク上の閲覧行動分析
2010年 4月～現在に至る	日本データベース学会(国内学会)会員
2011年 1月～現在に至る	IEEE Computer Society(国際学会)会員
2011年 7月～2011年 7月	The 23rd International Conference on Software Engineering and Knowledge Engineering 座長
2012年 1月～現在に至る	Association for Computing Machinery(国際学会)会員
2012年 1月～2012年12月	The 12th International Conference on Web Engineering 委員
2012年 1月～2012年12月	The 2012 International Conference on Web Science and Engineering 委員
2012年 1月～2012年12月	The 24th International Conference on Software Engineering and Knowledge Engineering 委員
2013年 1月～2013年12月	The 13th International Conference on Web Engineering 委員
2013年 1月～2013年12月	The 2013 IEEE International Conference on Tools with Artificial Intelligence 委員
2013年 1月～2013年12月	The 2013 International Conference on Web Science and Engineering 委員
2013年 1月～2013年12月	The 25th International Conference on Software Engineering and Knowledge Engineering 委員
2013年 4月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)会員
2014年 1月～2014年12月	The 14th International Conference on Web Engineering 委員
2014年 1月～2014年12月	The 2014 IEEE International Conference on Tools with Artificial Intelligence 委員
2014年 1月～2014年12月	The 26th International Conference on Software Engineering and Knowledge Engineering 委員
2014年 1月～2014年12月	The 3rd International Conference on Web Science and Engineering 委員
2014年 4月～現在に至る	その他の補助金・助成金 (国立情報学研究所)700,000円 「共同研究 (一般研究公募型)」 閲覧行動の分析に基づく情報の「賞味期限」に配慮した検索システムの研究 (研究代表者)
2014年 4月～現在に至る	その他の補助金・助成金 (神奈川大学総合理学研究所)900,000円 「共同研究助成」 情報の「賞味期限」に配慮した検索システムの研究 (研究代表者)
2014年 4月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
2014年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 2,600,000円 「若手研究 (B)」 Web機能の再利用と統合に向けた大規模UIコンポーネントの検索方法の研究 (研究代表者)
2014年 4月～現在に至る	競争的資金等の外部資金による研究 (JSPS)UIコンポーネントの再利用と融合
2014年 4月～現在に至る	競争的資金等の外部資金による研究 (国立情報学研究所) 閲覧行動の分析に基づく情報の「賞味期限」に配慮した検索システムの研究
2014年 4月～現在に至る	競争的資金等の外部資金による研究 (国立情報学研究所、神奈川大学)情報の賞味期限
2015年 1月～現在に至る	The 15th International Conference on Web Engineering 委員
2015年 1月～現在に至る	The 27th International Conference on Software Engineering and Knowledge Engineering 委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 理学部情報科学科	職名 教授	氏名 海谷 治彦	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Validating Security Design Pattern Applications by Testing Design Models (査読付)	共著		International Journal of Secure Software Engineering (IJSSE) (IGI-Global) 5(4)	Takanori Kobashi and Nobukazu Yoshioka and Haruhiko Kaiya and Hironori Washizaki and Takano Okubo and Yoshiaki Fukazawa	1-30頁
静的解析によるAndroidパーミッションの利用目的の可視化方法 (査読付)	共著		情報処理学会論文誌(情報処理学会) 56(1)	坂下 卓弥, 小形 真平, 海谷 治彦, 海尻 賢二.	391-400頁

Improving Reliability of Spectrum Analysis for Software Quality Requirements using TCM	共著	2010年 4月	IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E93-D, No. 4.	Haruhiko Kaiya, Masaaki Tanigawa, Shunichi Suzuki, Tomonori Sato, Akira Osada, and Kenji Kaijiri.	702-712頁
An Integrated Support for Attributed Goal-Oriented Requirements Analysis Method and Its Implementation	共著	2010年 7月	Proc. of the 10th International Conference on Quality Software, IEEE CPS.	Motoshi Saeki, Shinpei Hayashi, and Haruhiko Kaiya	357-360頁
Towards an Integrated Support for Traceability of Quality Requirements using Software Spectrum Analysis	共著	2010年 7月	Proceedings of the 5th International Conference on Software and Data Technologies (ICSOFT).	H. Kaiya, K. Amemiya, Y. Shimizu, and K. Kaijiri.	187-194頁
要求変更によるソースコードへのインパクトを分析するシステムの開発と評価.	共著	2010年10月	電子情報通信学会論文誌, Vol. J93-D, No. 10.	海谷 治彦, 長田 晃, 原 賢一郎, 海尻 賢二.	1822-1835頁
類似既存システムの情報を利用した要求獲得支援システムの開発と評価	共著	2010年10月	電子情報通信学会論文誌, Vol. J93-D, No. 10.	海谷 治彦, 北澤 直幸, 長田 晃, 海尻 賢二.	1836-1850頁
ソフトウェアが中心でない製品における既存技術を利用したソフトウェア改訂支援	共著	2012年 2月	情報処理学会論文誌, Vol. 53, No. 2.	海谷 治彦, 原 賢一郎, 小林 亮太郎, 長田 晃, 海尻 賢二.	653-661頁
分析履歴を用いたソフトウェア品質要求のスペクトル分析法	共著	2012年 2月	情報処理学会論文誌, Vol. 53, No. 2.	海谷 治彦, 鈴木 駿一, 小川 享, 谷川 正明, 梅村 真弘, 海尻 賢二.	510-522頁

要求獲得のためのオン トログをWebマイニン グにより拡充する手法 の提案 と評価	共著	2012年 2月	情報処理学会論文誌 , Vol. 53, No. 2.	海谷 治彦, 清水 悠太郎, 安井 浩貴, 海尻 賢二, 林 晋平, 佐 伯 元司.	495-509頁
Analyzing Impacts on Software Enhancement Caused by Security Design Alternatives with Patterns	共著	2012年 3月		Takao Okubo, <u>Haruhiko Kaiya</u> , and Nobukazu Yoshioka.	37-61頁
Finding incorrect and missing quality requirements definitions using requirements frame	共著	2012年 4月	IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E95-D, No. 4.	<u>Haruhiko Kaiya</u> and Atsushi Ohnishi.	1031-1043頁
Impact analysis on an attributed goal graph	共著	2012年 4月	IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E95-D, No. 4.	Shinpei Hayashi, Daisuke Tanabe, <u>Haruhiko Kaiya</u> , and Motoshi Saeki.	1012-1020頁
Toward the decision tree for inferring requirements maturation types	共著	2012年 4月	IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E95-D, No. 4.	T. Nakatani, N. Kondo, J. Shirogane, H. Kaiya, S. Hori, and K. Katamine.	pp. 1021-1030頁
Spectrum analysis on quality requirements consideration in software design documents	共著	2013年 7月	SpringerPlus, Vol. 2, Issue 1, No. 310.	<u>Haruhiko Kaiya</u> , Masahiro Umemura, Shinpei Ogata, and Kenji Kaijiri.	
Enhancing Goal-Oriented Security Requirements Analysis Using Common Criteria-Based Knowledge	共著	2013年 9月	International Journal of Software Engineering and Knowledge Engineering (IJSEKE). World Scientific Publishing.	Motoshi Saeki, Shinpei Hayashi, <u>Haruhiko Kaiya</u> .	

Eliciting Security Requirements for an Information System using Asset Flows and Processor Deployment	共著	2013年11月	International Journal of Secure Software Engineering (IJSSE), IGI Global, Vol. 4, Issue 3.	Haruhiko Kaiya, Masahiro Umemura, Shinpei Ogata, and Kenji Kaijiri.	
機能要求に必要な品質要求の機械学習による予測法	共著	2013年11月	電子情報通信学会 論文誌 和文D	田中 賢, 海谷 治彦, 大西 淳	
情報検索手法に基づくトレーサビリティリンク回復のための手法オプションについてのマイニングの提案と評価 (査読付)	共著	2014年 5月	電子情報通信学会論文誌, Vol. J97-D, No. 3,	上田 健之, 小形 真平, 海谷 治彦, 海尻 賢二.	414-426頁
MASG: Advanced Misuse Case Analysis Model with Assets and Security Goals (査読付)	共著	2014年 7月	Journal of Information Processing (JPSJ) 22(3)	Takao Okubo, Kenji Taguchi, Haruhiko Kaiya, and Nobukazu Yoshioka.	536-546頁
その他					
Measuring Characteristics of Models and Model Transformations Using Ontology and Graph Rewriting Techniques	共著	2010年	Lecture Notes in Communications in Computer and Information Science (CCIS 69), Springer	M. Saeki and H. Kaiya.	3-16頁
Enhancing Domain Knowledge for Requirements Elicitation with Web Mining	共著	2010年11月	Proceedings of 17th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2010), IEEE CPS.	H. Kaiya, Y. Shimizu, H. Yasui, K. Kaijiri, and M. Saeki.	3-12頁

Checking Regulatory Compliance of Business Processes and Information Systems	共著	2011年	Software and Data Technologies, Vol. 50, Springer, Communications in Computer and Information Science (CCIS).	M. Saeki, <u>H. Kaiya</u> , and S. Hattori.	71-84頁
Exploring how to support software revision in software non-intensive projects using existing techniques	共著	2011年 7月	35th Annual IEEE International Computer Software and Applications Conference Workshops (COMPSACW 2011), IEEE CPS.	<u>H. Kaiya</u> , K. Hara, K. Kobayashi, A. Osada, and K. Kaijiri.	327-334頁
Quality Requirements Analysis using Requirements Frames	共著	2011年 7月	Proc. of the 11th International Conference on Quality Software (QSIC), IEEE CPS.	<u>H. Kaiya</u> and A. Ohnishi.	198-207頁
Spectrum Analysis for Software Quality Requirements using Analyses Records	共著	2011年 7月	35th Annual IEEE International Computer Software and Applications Conference Workshops (COMPSACW 2011), IEEE CPS.	<u>H. Kaiya</u> , S. Suzuki, T. Ogawa, M. Tanigawa, M. Umemura, and K. Kaijiri.	500-503頁

Effective Security Impact Analysis with Patterns for Software Enhancement	共著	2011年 8月	Proceedings of the 2011 Sixth International Conference on Availability, Reliability and Security (ARES), IEEE CPS.	T. Okubo, <u>H. Kaiya</u> , and N. Yoshioka.	527-534頁
Facilitating Business Improvement by Information Systems using Model Transformation and Metrics	共著	2012年 6月	Proceedings of the Forum at the CAiSE 2012 Conference (CAiSE 2012 Forum), CEUR Workshop Proceedings, Vol-453	<u>H. Kaiya</u> , S. Morita, K. Kaijiri, S. Hayashi, and M. Saeki.	106-113頁
Improving Software Quality Requirements Specifications Using Spectrum Analysis	共著	2012年 7月	36th Annual IEEE International Computer Software and Applications Conference Workshops (COMPSACW 2012), IEEE CPS.	<u>H. Kaiya</u> and A. Ohnishi.	379-384頁
Mutual Refinement of Security Requirements and Architecture Using Twin Peaks Model	共著	2012年 7月	36th Annual IEEE International Computer Software and Applications Conference Workshops (COMPSACW 2012), IEEE CPS.	T. Okubo, <u>H. Kaiya</u> , and N. Yoshioka.	367-372頁

Validating Quality Requirements Considerations in a Design Document using Spectrum Analysis	共著	2012年 8月	Knowledge-Based Software Engineering, IOS Press.	M. Umemura, <u>H. Kaiya</u> , S. Ogata and K. Kaijiri.	88-97頁
Predicting Quality Requirements Necessary for a Functional Requirement based on Machine Learning	共著	2012年11月	The Seventh International Conference on Software Engineering Advances (ICSEA 2012), IARIA.	Ken Tanaka, <u>Haruhiko Kaiya</u> , and Atsushi Ohnishi.	540-547頁
Model Transformation Patterns for Introducing Suitable Information Systems	共著	2012年12月	Proceedings of 19th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2012), IEEE CPS.	<u>H. Kaiya</u> , S. Morita, S. Ogata, K. Kaijiri, S. Hayashi, and M. Saeki.	434-439頁
Goal-oriented security requirements analysis for a system used in several different activities	共著	2013年 6月	Advanced Information Systems Engineering Workshops, Vol. 148 of Lecture Notes in Business Information Processing (LNBIP), Springer.	<u>H. Kaiya</u> , T. Okubo, N. Kanaya, Y. Suzuki, S. Ogata, K. Kaijiri, and N. Yoshioka.	478-489頁

国際会議論文 Validating Security Design Pattern Applications Using Model Testing, In Proceedings of International Conference on Availability, Reliability and Security (ARES 2013), IEEE CPS, 2-6 Sep., Regensburg, Germany.	共著	2013年 9月		Takanori Kobashi, Nobukazu Yoshioka, Takao Okubo, <u>Haruhiko Kaiya</u> , Hironori Washizaki and Yoshiaki Fukazawa.	62-71頁
国際会議論文 IR based Traceability Link Recovery Method Mining. In The Eighth International Conference on Software Engineering Advances (ICSEA13)	共著	2013年10月		Takeyuki Ueda, Shinpei Ogata, <u>Haruhiko Kaiya</u> , and Kenji Kaijiri.	278-284頁
Security Driven Requirements Refinement and Exploration of Architecture with multiple NFR points of view.	共著	2014年 1月		Takao Okubo, Nobukazu Yoshioka, and <u>Haruhiko Kaiya</u>	201-205頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1989年 8月～現在に至る		情報処理学会 会員			
1995年 3月～現在に至る		IEEE Computer Society 会員			
1995年 4月～現在に至る		Association for Computing Machinery(ACM) 会員			

2000年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 2,100,000円 「平成12-13年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)」面接型教育支援システム構築を題材とした新技術導入の効果見積もり法の評価 (研究代表者)
2003年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 3,000,000円 「平成15-16年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)」ゴール指向分析を用いたJavaセキュリティポリシーの確認法 (研究代表者)
2005年 4月～現在に至る	その他の補助金・助成金 (半導体理工学センター) 30,520,000円 「共同研究」要求と変更の多様化を許容可能な組込ソフトウェア開発手法に関する研究 (研究代表者)
2006年 4月～現在に至る	その他の補助金・助成金 (柏森情報科学振興財団) 800,000円 「奨学寄附金」既存システムの特徴比較に基づくソフトウェア要求分析手法の研究 (研究代表者)
2006年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 3,600,000円 「平成18-19年度 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)」スペクトル分析を用いたソフトウェア品質要求の妥当性と継承の確認法 (研究代表者)
2007年 8月～現在に至る	情報処理学会ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム プログラム委員長
2008年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 3,400,000円 「平成20-22年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)」スペクトル分析をもちいたソフトウェア品質要求の妥当性と継承の確認法 (研究代表者)
2008年 7月～現在に至る	情報処理学会論文誌特集号 編集長(ゲストエディタ)
2011年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 4,000,000円 「平成23-25年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)」情報システムの要求分析段階における脆弱性除去と対策選択を支援するシステムの開発 (研究代表者)
2011年 6月～現在に至る	International Conference on Advanced Information Systems Engineering (LNCS) プログラム委員
2012年 4月～現在に至る	その他の補助金・助成金 (高橋産業経済研究財団) 1,000,000円 「奨学寄附金」情報通信技術の社会への貢献度を事前見積りする手法の開発 (研究代表者)
2012年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 1,800,000円 「平成24-25年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B)」セキュリティの変化に迅速に対応できるパターン指向ソフトウェア開発法の研究 (研究分担者)